

ひとはく通信

# ハーモニー

134

Sep.2026

海を隔てた地層をつなぐ  
～化石と小さな鉱物から  
地層に刻まれた時間を読み解く～

鹿児島県下飯島（しもこしきしま）  
夜萩円山（よはぎまるやま）展望所から望む鹿島断崖。  
写真で白く見える砂岩と黒く見える泥岩が繰り返し重なる上部白亜系姫浦層群が、  
高さ 170m の海食崖をつくっている。

兵庫県立  
人と自然の博物館  
Museum of Nature and Human Activities, Hyogo  
<https://hitohaku.jp>

古ければ古いほど貴重なものって、な～んだ?と聞かれると、反射的に「標本」と答えそうになるのが分類学者の性です。生き物の生育地が開発され、気候までもが変化し、外来種によって生物相が上書きされている「今の私たち」に、どのような生物が、どのような場所で、どのような時期に、どのような姿をして存在していたのかを見せてくれるのは、今後増えることのない「過去の標本」だけです。しかし、今になって過去の標本をこれから増やすことはできません。ですので、個人で保管されていた過去の標本を博物館に寄贈していただけるのは、大変ありがたいことです。

現在、親子2代にわたって標本を収集してこられた方のご遺族より、大量の標本を寄贈いただいています。植物標本だけで数十箱があり、1930年代の貴重な標本や、今では絶滅危惧種となってしまった植物の標本も多く混じっています。保存状態やラベル情報を確認し、受け入れるもの、交換に供するもの、廃棄するものの選定を行っており、1～2年以内に数量把握が完了するでしょう。

市民の方々によって集められた標本に支えられる日本の分類学研究の伝統が、今を生き延びて、今以上にwin-winな形で未来に続くことを願います。

李忠建(系統分類研究グループ)



図1 受け入れる標本を選定



図2 情報不足で廃棄される例

トピックス

新着研究 ～琉球列島と小笠原諸島、コケの種類は同じ? 違う?～

日本の南方に位置する琉球列島と小笠原諸島は、どちらも亜熱帯の温暖で湿潤な気候に恵まれ、生物多様性の高い地域です。多くの生物はそれぞれの地域で独自の進化を遂げ、異なる生態系を形成しています。一方、コケ植物は非常に小さな孢子が風に乗ったり鳥に付着したりして広く運ばれるため、両地域に共通して分布する種類が多く、固有種は比較的少ないとされています。

私は両地域のコケ植物を調査し、その違いや共通点を比較



図4 乾くと葉先がねじれる小笠原諸島の *Leucophanes glaucum*

しています。専門としているカタシロゴ

ケ科では、小笠原諸島から7種を確認しており、そのうち4種は琉球列島にも分布する一方、3種は日本では小笠原諸島にのみ知られています。なかでもニセハブタエゴケは、これまで両地域に分布すると考えられていましたが、小笠原諸島のものはよく似た別種であることが明らかになりました。どちらも東南アジアに広く分布する種類ですが、日本へはそれぞれ異なる経路で進出してきたようです。

西畑 和輝(系統分類研究グループ)



図3 琉球列島西表島のニセハブタエゴケ

